

社説

教育社會の自尊
排外熱

自から中華と稱して他を卑むは支那の病源にして内、文明の洋に浴する能はず外、侮を受けて國歩の困難を感ずるなど種々の難境を醸成するは之が爲めのみ日本は固より支那と日を同うして論ず可らず鎖國の夢は既に覺めて文明の進歩をたたりと雖も細に吟味すれば尙ほ自守の舊の臭味を脱する能はずして陰然開明主義に反抗せんとするもの少なからず當に老輩の間に於て然るのみならず未來の國民を作る可き教育社會に於ても亦るの氣風の盛なるを見るは我輩の深く歎息する所なり上は大學より下は小學校に至るまで國粹熱に犯され居るは明白なる事實にして試に學生の語氣を察するに恰も日本は神洲にして其國體は世界に冠たり山水は秀麗にして人民も亦一種特別の種族なりと迷信して得々たるものゝ如し或は日本男子、日本魂など云々して過般の戰爭に支那に打勝ちしも西洋文明の力に由るものとは思はず道徳を語れば即ち仁義忠孝にして外に尊む可き道なきが如く耶蘇教を蛇蝎視すると共に國粹主義の新聞雜誌を愛讀し學校の教科書も多くは漢儒者又は皇學者流の言行録に非ざれば其文章を翻譯し若しくは少しく修正したるものなり其他文部局に當る者も漢儒者流の末類なれば自から評判宜しきに反して一朝西洋主義の人物が任に當るとあれば内外の非難喧しくして其他位に安んずるも能はざるが如き明に教育社會に保守排外の氣風盛なるを見る可し東洋流の古風以て國を守るに足らざるは既に明白にして支那朝鮮と伍を爲したる日本が兎も角も世界強國の一にまで進歩したるは幾度西洋の文明を輸入したるが爲めなるに然るに將來日本の運命を支配す可き少年をして自尊排外の奮闘を賞らしめんとするは何事ぞや日本の文明は近來進歩したりと云ふも雖も尙ほ西洋諸國に及ばざるものと違し假令全力を以て一直線に猛進するも何時彼等に追付く可きか殆んど望洋の歎なき能はざるに狐疑購蹙とは奇怪千萬解す可らざるのみか我は東洋の片田舎に位して人種を異にし宗教を異にするが故に動もすれば列國より疎外せられて非常の迷惑を感ずるものと少なからず目前の事實に徴しても明白なれば苟も支那朝鮮の共に屬するに足らざるを悟りたる上は進んで西洋と方向を共にし思想感情風俗習慣等一切彼等に同化して是非とも其仲間に入らざる可らず然るに我れ自から門戸を閉居にして排外の意を示すに於ては左なきだに我を喜ばざる諸外國はいよゝ排斥して到る所衝突し恰も八方驚りの窮境に陥る可きは明白なり愛國者の大に心配する所なるに文明の標榜者たる可き教育者が固陋の成と所見を同うして却て支那流の思想を養ふに努めたりとは何事ぞや返へすと痛感に堪へざるなり現任の文部省局長は如何なる種類の人が愛國の知らざる所なれども現在其部下に愛國熱風の盛なるを見ながら敢て一掃せざるは男ならずか然らずんば同臭味の毒を飲めざるを得ず支那の病源は中華自大の妄信に存

し日本の進歩に百般の障礙を與ふるものは實に國粹論に在るものとせば老輩は敢方なしとするも切めては新進の少年をして此病を免れしめざる可らざるに益々病毒を蔓延せしむるが如きは斷じて容す可らず我輩は切に其反省を促すものにして若しもしよゝ開かざるに於ては一步を進めて更らに文部省の廢止を主張せんと欲するものなり

東京の市政 (十二)

市區改正運滞の損害

内務省の委員會が無責任なりしと市會が退縮主義を守りし爲め市區改正の事は最も最初の計畫行はれずして中央繁華の場所より實行す可き街路の改正は却て城末より着手し河川の改良橋梁の架換は更らに行届かず殊に日本橋、神田、京橋の三區は東京の中心にして百貨集積の場所なるが故に勅令に指定したる營業、衛生、交通、防火の四項目に對して改正の目的を貫かんには他の區を疎忽として先づ第一着に此三區より手を下し舊幕以來存積し來りたる總ての妨害を排除して眞に帝都の中央市區たる可き便利を増し體裁を全からしむ可き筈なるに然るに前號に掲げたる如く毎度少額の金額を支出して廣大なる場所を改良せんと圖るが爲めに價高き土地は之を賣渡す能はず堅牢なる建物は移轉料に閉口する等情も存積なる高利貸が算盤を頭に掛けて仕車するの風情なるより斯る繁榮の土地に手を着くるの勇氣は無論其胸中に浮む事なく遂には遠く山の手或は城末に去て人も通はぬ道路を開き折角改正したる街路は夏草茫茫と生茂り其兩側には未だ人家も立脚せずして一碧の田園の展望に可なるものあるに反して晝夜往來の絶間なく車馬の出入に道の狭さを數々苦情百出す所あるも當局者は頗ど之を顧みず異口同音唯財源なきを口實とするは實に怪しからぬ次第にして財源なしとの口實は取りも直さず東京市民は貧乏に爲りたりと言ふに同じけれども之を實際に照して東京市民が貧乏に爲りたりとの證據は一もなきのみならず市區改正の創業以來年々歳々唯進歩繁榮するのみにして市中に金満家の殖ゆる事雨後の筍の如し故に有る市の繁昌を増進する方法ならば其方法を實行せんが爲めに是等の金持に公債を持たしむるも可なり市民一般に増税を促すも可なり今日東京の富にして尙ほ此上の増税或は負擔に耐へ難き事情あるを見ず然るに市區改正創業以來之に要する財政の始末を聞くに最初政府より貰ひ受けたる河岸地の収入と外に一二の附加税を加へて其収入大凡五十萬圓許あり之を以て毎歲の改正費に充つ可き筈なりしも中途にして明治二十五年より市區改正事業の一たる水道事業の起るや東京市は之が爲め一千萬圓の公債を募りて其中六百五十萬圓を水道費と爲し残り三百五十萬圓を以て水道敷設の爲め街路の改正を募る部分及び公園地を改正するの設計に充用したり之が爲め従来市區改正費の歳入凡五十萬圓中より毎歲二十五萬圓宛の公債利子を支出する計算なりしが故に今日市區改正費として用ひ得る金は毎歲二十五萬圓に過ぎずと雖も其代りに公債の収入三百五十

萬圓を得て重なる街路と公園とは大改良を行ふ可き筈なりしに其後市會の爲す所を見れば市區改正費の歳入は約東通り確かは二十五萬圓宛公債利子へ廻したれども其代りとして可き三百五十萬圓の公債は之を募集せずして初級の計畫に反し只管其事業を縮むるに熱中したる爲め不都合の結果は幾々胎出して市民の損害は非常に増加したり殊に水道事業の進行を妨害したる始末に至りては言語道斷にして己れの手を己れの頭を擧つに異らすといふ今其仔細を記さんには水道敷設の事業は將來永久を慮るが故に其鐵管を埋没するには市區改正の設計圖に基き街路の下へ埋む可きものなれども其街路は地盤面上に於てみそ一帯或は二等なぞも朱甍にて幅廣の場所なれども實際に於ては未だ改正を行はざる爲め其幅僅に三四間の所あり或は單に將來の道路として朱線を畫したるのみにて實際は人家稠密の場所なるものありて頗る幅狭き道路へ大鐵管を埋むるの困難なる其狀は筆紙に盡す可からず況して道路なき場所に於ては人家を立退かしむるの外策なしと雖も是等は元來市區改正の爲す可き仕事にして鐵管埋没に先き既に街路を通じ置かざりしが都合の結果といふ可し若し市會にして最初の計畫通り三百五十萬圓の市債を募りて市中重なる部分の街路を改正し置きたらんにハ斯の如き不都合もなかりし水道敷設の進行も尙ほ幾分か速かなりしのみならず市中の交通は夙に其便利を得て勅令に所謂運送の目的も幾分か早し速したるならんと雖も購蹙遂巡して其金を惜みたる結果は單に是等不都合を來したるのみならず市民の負擔をして漸次に益々重からしめんとせり其理由は東京市内の地面は一年々々に騰貴する爲め市區改正は一年一年と之を延ばすに從て其費用益々多きを要するものと明白の數にして明治二十年即ち今を去る十年前の地價と今日とを比較し更らに將來を推すとせば十年後の地價も大凡推するに難からず更らに又之に依りて三十年の後の推したる表は明治二十年來に於ける東京十五區内地價の變動を示めせるものにして東京市の地面は此十年間に平均七割の騰貴を爲したる事情を知り得べし(三井地所部調査)

新工夫

將軍 オイ信誠掛、奴を一寸と突いて臭んな向ふの山上に在るの



七番大貫氏の

Table with 2 columns: 姓名 (Name) and 年齢 (Age). It lists names and their corresponding ages.